



2025 年度
第 35 号

体育市民連帯 ニュースレター

1
無鉄砲な
国家代表の指導者排除
スケート連盟に
何があったの？



2
試合に負けたと
弟子を暴行
中継で捕えられた
「暴力コーチ」



3
安全装置のない
「信頼」の陰
試験台に上がった
テコンドー道場



4
準備のない移転反対
サッカー協会
「天安時代」を控えて
騒々しい



5
AI はスポーツ政策の
選択ではなく必須
政府が民間の自律性を
支援する環境づくりが必要



大韓民国スポーツの

根本的变化を

皆さんと共に

作って行きたいです

体育市民連帯と共に

していただけますか？



*

01 ハンギョレ 2025-09-19

「無鉄砲な」国家代表の指導者排除・・・スケート連盟に何があったの？



「競技力向上委員会で契約解除の事由発生と判断しました。 契約解除のために今行政処理中で、書面通知する予定です」

ショートトラックの金ヒョンゴン国家代表コーチは 2025 年 6 月 17 日、大韓氷上競技連盟(スケート連盟)職員に電話で「契約解除」通知を受けた。 勤労契約期間が 2026 年 3 月 31 日までで、「契約解約」理由である「食事代不当請求」事件は大韓体育会の再審議を待っていた状況だった。 体育会の再審期間中、スケート連盟の懲戒(資格停止 3 カ月)は「効力停止」状態であるため、スケート連盟が次の段階である「契約解除」に言及できなかった。 金コーチはこの時「資格停止 3 ヶ月は懲戒そのものが目的ではなく、自分を排除するというスケート連盟の意志」と直感した。

予感の外れなかった。 スケート連盟は 5 月 23 日、金コーチに資格停止 3 ヶ月の処分を下した後、彼を指導者業務から排除した。 上級団体である大韓体育会が「懲戒効力を停止させ復職させろ」と警告し、裁判所まで同じ趣旨の仮処分を引用したが、スケート連盟は気にしなかった。 ハンギョレ 21 がソン・ソル進歩党議員を通じて確保したスケート連盟内部資料を見れば、スケート連盟が金コーチとユン・ジェミョン国家代表監督を排除するために無理をした状況があちこちに明らかになっている。 さらに、2 人の指導者を解任する口実を見つけようと、現国家代表選手まで動員した事実も確認された。

予感の外れなかった。 スケート連盟は 5 月 23 日、金コーチに資格停止 3 ヶ月の処分を下した後、彼を指導者業務から排除した。 上級団体である大韓体育会が「懲戒効力を停止させ復職させろ」と警告し、裁判所まで同じ趣旨の仮処分を引用したが、スケート連盟は気にしなかった。 ハンギョレ 21 がソン・ソル進歩党議員を通じて確保したスケート連盟内部資料を見れば、スケート連盟が金コーチとユン・ジェミョン国家代表監督を排除するために無理をした状況があちこちに明らかになっている。 さらに、2 人の指導者を解任する口実を見つけようと、現国家代表選手まで動員した事実も確認された。

「イ・スギョン体制」に入ってから始まった排除

排除はスケート連盟が「イ・スギョン会長」体制に変わり始まった。 フィギュア選手出身のイ・スギョン・サンボモーターズグループ社長は、2025 年 2 月 25 日、スケート連盟会長に就任した後、新しい執行部を設ける。 パク・セウ韓国体育大学教授がスケート連盟副会長代行兼専務理事に就任し、キム・ソンテ城南市庁監督、ジェガルソンニョル議政府市庁監督など京畿人出身が大挙理事陣に合流する。 彼らは競技力向上委員会(パク・セウ委員長)にも所属し、2026 年 2 月のミラノ・コルティナダンペッツォ冬季五輪を狙った国家代表とエリート選手訓練および支援戦略樹立に主導的な役割を果たした。

新しい執行部の競技力向上委員会は構成されるやいなやユン監督と金コーチの「食事代不当請求」事件を再検討する。 この事件はショートトラック指導者と選手たちが 2024 年 12 月初め、中国北京で開かれた国際大会の途中、外部で 4 回食事をして費用を精算する過程で起きた。 食事代を決済したユン監督から領収書を受け取った金コーチがスケート連盟に費用を請求し約 73 万ウォンを受け取ったが、これに対して「着服疑惑」がふくらんだのだ。

2025 年初め、前任執行部はユン監督の申告で調査に乗り出した。 2 月 22 日に行われた調査は、金コーチが「監督の指示なしに任意に費用を請求し、着服する意志があったか」に焦点を合わせたが、調査官は「金コーチが任意に着服したという疑いがある」という前提が変更されたと結論付けた。 ユン監督が調査

前に金コーチの請求内訳を執行するという趣旨で話したスケート連盟職員に「分かりました」と言い、金コーチは「私が受け取るお金ではないので連盟判断により返す」と言った事実が確認されたためだ。しかし、新執行部の競技力向上委員会は4月22日の第2回会議で、同事件をスポーツ公正委員会（スポーツ公正委）に付託し、再調査することを議決する。その後、スポーツ公正委は5月23日、「金コーチが本人が決済しなかった内訳を不当に請求し、ユン監督はこれをスケート連盟に知らせなかった」とし、それぞれ資格停止1カ月（ユン・ジェミョン）、3カ月（金ヒョンゴン）の処分を下す。金コーチが再調査で「現地の食事が不十分で監督が外部の食事を提案し、代表チームの食事代は公的な支出だと判断した。その後、連盟から何の連絡もなく、お金が入金されたことも知らなかった」と抗弁したが受け入れられなかった。

懲戒決定の前に作成された新しい監督の採用公告

この懲戒を基点にスケート連盟は電光石火のように後続措置に着手する。当事者たちの異議提起が予想できる状況だったのに、内部的に指導者採用公告まで用意しておくなど「契約解約」を準備した。

競技力向上委員会は5月23日、スポーツ公正委の懲戒結果が出た後、直ちに第5回会議を書面で進めた。この時、競技力向上委員らは「ショートトラック国家代表指導者採用計画の件」を「全員賛成」と議決し「新しい国家代表監督および指導者採用公告案」も共に調べた。規定上、独立的に審議・議決機能を備えたスポーツ公正委員会の結果（懲戒）を予想し、公告案をあらかじめ組んでおいたと疑われる部分だ。

2026年2月の冬季五輪を控えた時点で、このような措置は異例のことだった。スケート連盟の事情をよく知っているA氏は「書面部議は緊急だが軽微な事案を処理する方式なので、国家代表指導者採用のような重大な事案を持って書面部議をすることはできない。少なくともテレビ会議でもしなければならない」とし、「スポーツ公正委で（懲戒が）決まることをスケート連盟が知っていたと推測するしかない。競技力向上委員会の委員たちが皆（指導者採用を）準備していた」と述べた。

懲戒に不服した二人の指導者は大韓体育会に再審を要請する。体育会に再審を申請すれば、スケート連盟の懲戒効力が一時停止されるためだ。金コーチは裁判所に懲戒効力停止仮処分申請も出した。体育会は再審申請を受け入れた。ところが、スケート連盟は6月2日、再審申請の事実を確認したにもかかわらず、両指導者の国家代表鎮川選手村への入村を許可しなかった。その一方で、給与は適時に支給した。両指導者は「契約書上、しなければならないこと（選手村で選手指導）をせず、報告書作成など他の仕事をして給与を受け取った」と口をそろえた。

この時からスケート連盟は「契約解約」と「新規採用」を同時に押し進める。競技力向上委員会は6次会议（6月9日）で「指導者の空席はオリンピックシーズンを控えた重要な時期に選手団管理および競技力に直結する否定的要因」とし「両指導者の勤労契約を解約し早期に新しい指導者を採用する」ことを議決する。第7回会議（6月19日）では、「成績不振、選手管理のずさんさ、トレーニングプログラムの問題点を理由に、両指導者との契約を解除することで議決」し、資質問題を持ち出す。

スケート連盟の意図を見抜いた2人の指導者は体育会を訪れる。事態を把握した体育会は7月9日と7月31日の2回にわたりスケート連盟に「法と規定により懲戒効力を停止し懲戒疑惑者らが2次被害を訴えないよう措置せよ」という内容の公文書を送る。金ナミ体育会事務総長も、スケート連盟の李スギョン会長に連絡し、懸念の意を伝える。

その間、金コーチは7月11日、裁判所から仮処分申請の認容決定通知まで受けた。裁判所はスケート連盟の懲戒を巡り「社会通念を越える苛酷な制裁」とし、「懲戒権を逸脱・乱用したと判断される」と決定文に摘示した。

それでも変わることはなかった。競技力向上委員会は第10回会議（7月24日）で「体育会スポーツ公正委の結果が発表されるまで両指導者を国家代表訓練から除外することで議決」した。体育会職員のN氏は「この事案は柳承敏（体育会）会長も報告を受けた。当時、会長は「そんなことがあったのか」と驚いていた」として「スケートは他の種目と（仕事の処理方式が）あまりにも違った。おかしいと思った」と話した。

国家代表選手まで動員したスケート連盟

指導者の空白問題が公論化すると、スケート連盟は論難を静める妙手を探す。ショートトラック国家代表選手団との面談を通じて、指導者解任の名分を築いたのだ。

競技力向上委員会は第12回会議（8月13日）で、競技力向上委員会委員の李インア弁護士からショートトラック代表チームとの面談結果の報告を受けた。選手団は8月6日、鎮川選手村でイ・インア委員に会い、2人の指導者について「競技運営と戦術などに関する流行に遅れている」「感情の起伏が激しく、この起伏が訓練内容にも影響を及ぼす」などの評価をした。続けて指導者空席解決案を尋ねる言葉には「新しい指導者を望む」「どちらも確定する前まで補充必要」等の返事を出した。面談資料を見た競技力向上委員会は12次会議で「多数の選手が該当指導者らの交替を望んでいる」として「両指導者の補職を暫定解任（解除）し選手団と分離することで議決」した。

スケート連盟は国会と体育会に選手団の意見を伝え、説得した。体育会職員のN氏は「当時、指導者空席問題を選手たちが決める事案なのか疑問だという気がした」として「指導者の指導力を問題視したが、ユン監督はオリンピックを3回も経験した監督だった。スケート連盟の立場が合理的ではなかった。少しフレームを組んでいく感じがした」と話した。スケート連盟の事情をよく知っているA氏は「選手たちに指導者交替可否を尋ねたのは今回が初めて」とし「選手たちが望む指導者を選ぶには公開採用をなぜするのか」と反問した。

裁判所と体育会は結局、スケート連盟にブレーキをかける。7月11日、金コーチは裁判所から仮処分申請の認容を受け、再審を拒否した。ユン監督は8月13日、体育会再審で「嫌疑なし」判定を受けた。するとスケート連盟は金ソンテ理事を「臨時総監督」にする作業に着手する。

超高速選任から5日後に退任した金ソンテ

国家代表監督は公開採用が原則だ。スケート連盟が両指導者に懲戒を下すやいなや、採用公告を準備した理由もこれを遵守するためだった。問題は金理事を超高速で2日後に新しい監督に選任しようと採用公告さえ出さなかったという点だ。

新執行部で金理事の影響力は強大だった。京郷委委員でありショートトラック競技タスクフォース(TF)委員長である彼は国家代表・エリート体育政策に直接・間接的に影響力を行使した。競技力向上委員会はこれまでショートトラック競技TFの意見を受けて意思決定をしてきたが、ショートトラック競技TFは8月19日、委員長の金理事を含む4人を次期指導者として競技力向上委員会に推薦する。競技力向上委員会は同日、第13回会議を開き、監督職に金理事を選んで理事会に上げる。

スケート連盟理事会は、競技力向上委員会会議翌日の8月20日、金理事を新監督に確定する。理事会で「スケート連盟側の疎通および業務処理が不十分だった。両指導者（ユン・ジェミョン、金ヒョンゴン）の処遇議論が必要だ」（諸葛成烈理事）という言葉が出たが、黙殺された。競技力向上委員会委員長のパク・セウ専務理事は「ユン監督には補職変更、キムコーチは解任を建議する」という立場を出した。スケート連盟は8月21日、報道資料を出し「選手団管理の疎かさと指導力不在問題でユン監督に補職変更を、金コーチは不誠実な態度と公金不当請求行為などを考慮して解任を議決した」と明らかにした。また、金理事については「国家代表チームを安定的にリードできる最適の人物と評価した」と説明した。これを見たある国家代表出身の指導者D氏は「金理事のセルフ推薦に加えセルフ任命」と批判した。法的手続きを無視したスケート連盟の全面的な支持で指導者になった金理事は体育会の承認を受けられなかったが、8月末に代表チームのカナダ転地訓練に合流する無理な行動をした。金コーチとユン監督は、スケート連盟が許さず、転地トレーニングに参加できなかった。金理事のカナダ転地トレーニング費用は全額スケート連盟が支援したという。転地訓練に行ってきた金理事は9月1日、体育会の許諾を得て鎮川選手村に入ったが、2018平昌冬季五輪当時、選手暴行事件を隠蔽して受けた懲戒履歴（資格停止1年）が論難になり5日後に退村した。

内部報告を受けたが沈黙した柳承敏体育会長

スケート連盟がこのように無鉄砲な「排除」の歩みを繰り返すことができたのは、体育会の生ぬるい対処も一役買った。柳承敏体育会長は「スケート連盟の対処に問題がある」という内部報告を受け、金コーチと直接対話し事情を把握したが、いかなる指示も出さなかった。ショートトラックは2026年2月のオリンピックでメダルを獲得する事実上唯一の種目であり、エリート体育の復興を夢見る柳会長が大きな関心を示す種目だった。

柳会長は7月29日、金コーチとスケート連盟の指導者入村拒否をめぐって対話を交わした。すでに「スケート連盟が規定どおり指導者たちの入村を許可していない」という内部報告を受けた状況だった。金コーチは裁判所の「懲戒効力停止」仮処分認容が出た状況に言及した後「3年間代表チームの成績が不振だったこともなく事件・事故もなかったが、スケート連盟が杵をかぶせてひとまず（代表チームから）出そうとしているという強力な疑いがある」と訴える。さらに、「契約期間まで任期さえ保障されれば、これ以上うるさくするつもりもないのに、一体誰を（指導者の席に）入れようとしているのか分からない」と吐露する。

金コーチの訴えを聞いた柳会長は「仮処分引用が出たのに復帰させてくれないということか」「今選手たちが監督とヘッドコーチなしで運動しているのか」「イ・スギョンスケート連盟会長がこの内容を知っているのか」等、色々な質問を投げかける。それと共に「法務室を通じて状況把握を明確にチェックし、来週くらいにまた会おう」とし、「スケート連盟の人事問題まで体育会がああしろこうしろとは言えないが、無念さはあってはならないので（事案を）よく把握して来週くらいに連絡を与える」と答える。

しかし、この対話を最後に柳会長の連絡は途絶える。スケート連盟は8月21日、報道資料で「金コーチを解任することを議決した」と公式発表した。体育会は7月9日と31日「懲戒効力を停止せよ」という公文書を2回送っただけで、追加措置はしなかった。金コーチは「柳承敏、会長はスケート連盟の立場によって動く人ではなく、法と秩序によって体育会を導いていかなければならない責任がある人だ。そのため、スケート連盟の違法な手続きを黙認した責任を負わなければならない」と強調した。

スケート連盟は先に説明したように金理事の過去の懲戒履歴が問題になるや、9月5日金理事を監督職から更迭し退任処理した。体育会再審で「嫌疑なし」処分を受けたユン監督は復職したが、金コーチにはどんな措置もしなかった。選手時代に踏めなかった「夢の舞台」オリンピック。「指導者としてオリンピックに行くのが一生の願い」だった金コーチはスケート連盟を相手に本案訴訟を準備している。進歩党のソン・ソル議員は「裁判所決定と体育会判断を無視するスケート連盟の対処が理解しにくい」として「体育会の生ぬるい対処は事実上黙認幫助ではないかという気がする。国政監査で間違ったことを正すために最善を尽くす」と述べた。

出典：https://h21.hani.co.kr/arti/society/society_general/58037.html

02 SBS 2025-09-19

試合に負けたと弟子を暴行・・・中継で捕えられた「暴力コーチ」



<アンカー>

高校のレスリングコーチが試合で負けた生徒に暴行する場面がユーチューブの生中継で捉えられました。SBS取材の結果、該当コーチは普段から暴言と暴行をしたという疑惑までふくらみました。

ユ・ビョンミン記者の単独報道です。

<記者>

7月末に開かれた高校レスリング大会です。

勝負に敗れたA選手がマットから降りると、Bコーチが手のひらで頭を叩き始めます。

観衆が見られる場所でも暴力を振るっていたBコーチは、まもなく選手の首筋をつかんで競技場の外に出たのですが、その後Bコーチが選手の首を叩き、胸に拳を飛ばす場面までユーチューブ中継に捕えられました。

取材の結果、Bコーチは普段から選手たちに暴言と暴力を振るったが、学生たちはBコーチが怖くてどこにも通報できなかったと打ち明けました。

[当該学校のC選手:訓練中に自分が気に入らなかつたり できなかつたら殴つたり、悪口を言つたり、足で蹴つたり。]

この大会をユーチューブで生中継され、3日前に事実を確認した大韓レスリング協会は一步遅れて真相調査に入り、学校側も3日前にスポーツ倫理センターから関連内容を通報された後になってようやくコーチと学生を分離措置しました。

最近相次ぐ体育界暴力問題に文体部と大韓体育会が無寛容原則を宣言し、レスリング協会も公式ホームページに暴力行為申告公示を出しておきましたが、現場状況は依然として改善されていないという評価です。

[チン・ジョンオ/国民の力 国会議員:暴行には 強い・普通がないと思います。 暴行そのものはとにかく根絶されなければなりません。 強力に措置を取って二次被害がないように (しなければなりません。)]

Bコーチは該当映像に対して「レスリング技術を説明してやったことが誤解される行動に見えただけ」とし、情報提供した学生たちも自身が教える弟子ではないという立場を明らかにしました。

03 イデイリー 2025-09-21

安全装置のない「信頼」の陰・・・試験台に上がったテコンドー道場



テコンドー館長という指導者の位置づけは、単なる技術伝達者を超え、尊敬と信頼の対象である。

2024 年 7 月、あるテコンドー道場で子供館員虐待死亡事件が起きた。該当指導者は当時 5 歳の児童を対象に 20 分以上逆さにひっくり返してぶら下げ、狭いマット空間に無理やり押し込み窒息で死亡に至らせた。A 氏は「いたずらだった」と無責任に主張し、反省のない態度と責任回避を日常的に行った。大衆はもちろん、同業の指導者たちから公憤を引き起こした。

△指導者の倫理性が崩れた瞬間

この事件は、指導者としての基本倫理まで徹底的に裏切った極悪非道な犯罪だ。特に、幼い生命の前で見せた無感覚と残忍さ、事件発生直後、証拠を隠蔽して責任を転嫁した態度は、指導者の資格を自ら破壊した行為そのものだ。

スポーツ指導者に期待される「世話と忍耐、配慮、生命尊重」という社会的価値がこの事件を通じて完全に毀損された。保護者たちは子供を信じて任せただけなのに、虐待と死亡という残酷な結果をむかえた。この事件は単なる個人の逸脱を越え、スポーツ指導者に持つ社会的信頼を無惨に破壊した。多くのテコンドー道場が地域社会で人格教育、体力鍛錬、共同体活動の場として位置づけられたが、今回の事件一つによってテコンドー全体に対する信頼が俎上に載せられた。

検察は無期懲役を求刑したが、裁判所は 2025 年 4 月 10 日 1 審で懲役 30 年と就職制限 10 年を宣告した。

被害者遺族は「70 代で出所できる」と現実に対する絶望を吐露した。

一部の国民は刑量が軽いと感じるが、法は感情より刑事司法体系の原則の上で動く。ただし、類似事件の再発を防ぐ強力なメッセージを与える判決が必要だという点には異見がない。

△倫理的判断と法的処罰の綱引き

今回の事件は、個別館長の逸脱と見てはならない。全国のテコンドー道場全体が「不信の影」の下に置かれる危険がある。多くの印章が少数の非人間的犯罪のためにイメージ打撃を受けている。父兄は子供をテコンドー道場に通わせることさえ悩んでいる。

テコンドー道場の運営を含め、指導者や全テコンドー界はより強力な改善が必要だ。倫理教育と指導者資格試験の強化を筆頭に、現在施行されている指導者選抜過程の倫理（財）教育の強力な検証と義務化、過去の指導者の修練内容、暴力および虐待履歴、相談日誌の共有などのモニタリングシステムの導入が必要である。

さらに、このような類似事件が発生した場合、透明な対応と疎通ができるようにテコンドー協会および加盟団体レベルで正直な謝罪と後続措置、被害者支援を公開的に遂行しなければならない。同じことが再発しないようにガイドラインを設ける必要がある。

△信頼より検証という安全装置が優先

今回の事件は、スポーツ指導者が持つ権威とそれにともなう責任を放棄した時、その結果が個人と集団、組織および社会にどれほど致命的な影響をもたらすかを冷静に示している。これは単なる個人の犯罪を越え、スポーツ指導者の倫理と社会的役割全般において大衆の期待を一举に崩した象徴的事例だ。

法的処罰の厳正さだけでなく、テコンドーおよび同種学院スポーツ界のシステムの再発防止の努力と社会的信頼回復のための構造的対応が何より至急だ。テコンドー界は社会と大衆に見せてきた自らのアイデンティティと価値を再整備しなければならない。さらに一步進むことができる信頼回復の姿勢と社会的責務を遂行しなければならないだろう。

被害児童と遺族には取り返しのつかない傷が残った。残った人々は、この事件を教訓にして、心からの反省の契機になることを切に願う。行動は今すぐ始めなければならない。

出典：<https://sports.news.nate.com/view/20250921n07653>

04 ニュース 1 2025-09-19

「準備のない移転反対」…サッカー協会、「天安時代」を控えて騒々しい



忠清南道天安への移転を控えている大韓サッカー協会が、内紛で苦しんでいる。ソウル光化門時代を終え天安時代を開く大きな変化を控えているが、以前の過程で不協和音が絶えない。

大韓サッカー協会は19日、ソウル鍾路区慶熙宮キルのサッカー会館に設けられた協会事務所を天安の大韓民国サッカー総合センターに公式移転する。

2022年に着工、約1800億ウォンをかけて完工した大韓民国サッカー総合センターは47万8000㎡規模のサッカーおよびスポーツ施設だ。計11面のサッカー場、スタジアム、室内サッカー場、宿舍棟はもちろん、サッカー博物館、体育館、生活体育施設などを網羅するマンモス級施設だ。

これからは男女年齢別代表チームなどがここに招集され訓練するだけでなく、サッカー協会の大会運営、広報、マーケティング、会計、教育、研究などすべての業務がここで行われる予定だ。

新しい場所で新しくスタートするサッカー協会の「天安時代」を控え、期待感も大きい。ただ、いざ内部の雰囲気はやや慌ただしい。

13日から引越しを始め、すでに協会の暮らしを大挙天安に移し始めたが、大部分の生活圏がソウルである職員に配慮した対策は不十分な理由だ。

サッカー協会の経営陣は、デッドラインを決め、移転を強行するという立場だが、まだ業務支援と交通の便作りなどに対する後続措置は取っていない。

何より天安に準備中の事務室は、まだ全職員が業務を行うことができない環境だ。

サッカー協会は初めてサッカーセンターを設計する時、総合センター内のKFAスタジアムに事務室を設ける計画だった。だが、昨年国政監査と文化体育観光部監査などで論難になるや、宿舍棟を事務室に変えて使うことに修正した。

サッカー界関係者は「ニュース 1」に「初めて設計する時から宿舍として使おうとした空間なので事務室として活用するには電気配線、水道など隘路事項が多い。みんな天安時代に合わせて意欲的に働こうと決心しているが、用途に合わない空間に 120 人が集まって働けばトイレと動線など色々な問題がさらに生じるだろう」と憂慮した。

交通手段の用意や移住対策も、まだ適当な解決策がない。サッカー協会の経営陣はまずソウル駅から天安サッカーセンターまでシャトルバスを運営するという代案を用意したが、全体職員の需要をまともに反映することはできなかったという指摘が出ている。

また、部署機能を考慮しない移転時期と関連しても不適切だという声がある。

サッカー協会は 10 月 10 日ブラジル、14 日パラグアイとの A マッチ 2 連戦を控えている。サッカー協会が最も気を使わなければならない日程だが、理事まで重なり業務支障が避けられない。

デッドラインに合わせてサッカー会館の事務室をほとんど空けたため、サッカー協会の職員たちは 2 階の大会議室を臨時事務室として利用するなど、業務の跛行が避けられない実情だ。

現在、サッカー会館内部のあちこちには「無計画無対策無責任！ 準備のない天安移転、ビジョンのない運営計画、韓国サッカーは終わりだ」などの張り紙が貼ってある。一部の労組職員たちは該当文句が書かれたチョッキを着て協会に真正性が担保された対策を促している。

キム・スンヒサッカー協会専務理事は「ニュース 1」に「職員の勤務環境が急変した状況であるだけに、サッカー協会側では公共機関移転水準に合う支援を約束した」と説明した。

続けて「交通もやはりシャトルバスの他に交通費支給などの方案も用意した。意見がかなり狭まったが、まだ狭められない部分もある」とし「職員全員が良い環境で天安時代を迎えるようにするのがサッカー協会の基本方針だ。労組側と持続的な対話を進行中であり、早期に最大限良い便りが伝えられるようにする」と明らかにした。

出典：<https://sports.news.nate.com/view/20250919n03133&cid=1136012>

05 ハンギョレ 2025-09-11

「AI はスポーツ政策の選択ではなく必須」… 政府が民間の自律性を支援する環境づくりが必要



AI(人工知能)時代を迎えて文体部に「AI スポーツ政策官」を新設しなければならないという主張が出てきた。

ソンムン大学のファン・セウン教授(AI ソフトウェア学科)は 11 日、ソウルオリンピックパークテルで開かれた韓国スポーツ科学院主催の「AI 基盤未来スポーツ競争力確保のための戦略および適用事例」政策フォーラムで「AI はスポーツ政策の選択ではなく、必須」として政府が AI スポーツ競争力のための制度と環境を作らなければならないと強調した。

ファン教授は「AI の強力なデータ処理および予測能力を活用して既存の政策的限界である財政難、人口減少、インフラ老朽化を克服できる」として「このために革新的なガバナンスと持続可能な発展基盤を構築しなければならない」と話した。

具体的に文部部の中に「AI スポーツ政策官」を置いて関連政策を総括調整する役割をしなければならないと提案した。 ファン教授は「AI は膨大なデータを分析し予測する能力でスポーツ生態系全般の非効率を解消できる」として「地域のスポーツ施設利用率、人口特性、選好種目などを土台に個人別オーダーメイド型運動プログラムを提供したり必要な施設構築で地域消滅危機にも対応できる」と主張した。

また、韓国の強豪であるアーチェリーやテコンドーで AI 技術を標準化する案も提示した。 彼は「アーチェリーで選手の力量を強化できる AI 訓練システムやテコンドーで蹴りの点数などに対する判定システムが作られれば、それが世界的に標準になりうる」と話した。 黄教授は、中国が e スポーツ分野で国際標準化機構 (ISO) の標準化を主導する事例を挙げた。

AI 技術は国内のスポーツ領域で多く活用されている。 選手の競技力データ分析や科学的なコーチング方法の開発、ファンに提供する多様な情報と視覚資料などが事例だ。 しかし、AI スポーツ技術を開発し、市場を確保するのは依然として難しい問題だ。

ビプロ (Bepro) カンパニーのヤン・ジュンソン本部長は「ビジネス成功モデルを作っていく過程だ。 研究開発にかかる費用があまりにも大きい。 こうした理由からプロ種目だけでなくアマチュア舞台に、さらに世界市場を対象に事業をしている」と説明した。

AI の導入でスポーツ福祉の死角地帯が解消されることもありうるが、巨額の技術使用費用を支払う階層だけが恩恵を享受することもある。 また、財源調達が可能で人気種目は先端技術を活用して選手たちの訓練効率を高め、競争力を強化することができるが、非人気種目は遅れを取る恐れがある。

ファン・セウン教授は「AI スポーツ政策は単純な技術の問題ではなく、技術の社会的拡散と包容的活用に関心を持たなければならない。 脆弱階層のための AI スポーツ技術接近性を改善し、不人気種目にも技術支援を拡大する制度的基盤を用意しなければならない」と話した。

出典 : https://www.hani.co.kr/arti/sports/sports_general/1218315.html

体育市民連帯オンライン 定期後援案内

万人が楽しむスポーツ世界、体育市民連帯が共に作ります。

私達連帯の活動に積極的に賛同していただくことを願います。

**私たち体育市民連帯は体育人の権益保護と
福祉実現のために努力しています。**

**皆さんの小さな心づかいがより良い世界のための
体育市民連帯活動に強固な土台となります。**

**体育市民連帯会員として力になろうと
される方は下の口座に後援お願いします。**

国民銀行 086601-04-095940

口座名義：体育市民連帯

オンライン定期後援は下のリンクを通じてホームページからできます。

多くの関心をお願いします。

体育市民連帯 ソウル市 瑞草区 瑞草洞 孝寧路 230 スンジョンビル 407 号

Tel : 02-2279-8999、E-mail : sports-cm@hanmail.net ホームページ : <http://www.sportscm.org/>

日本語訳 : 佐藤好行 新日本スポーツ連盟 国際活動局 韓国担当 jr1fep@gmail.com

週刊ニュースレターバックナンバー (資料室) <http://www.yg.jpn.org/sportscm/index.html>